

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100079		
法人名	有限会社ヘルースサポート		
事業所名	グループホーム若狭の家		
所在地	沖縄県那覇若狭3丁目4番10号3F		
自己評価作成日	令和4年 10月2日	評価結果市町村受理日	令和4年12月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍の下、利用者とその家族の面会が制限されている中であっても地域の自治会、民生委員とのつながりを持ちながら幼稚園の誕生会に招待され地域に根ざした活動を行っている。またレク担当者は利用者のADL低下の予防の為屋上で歩行訓練を行ったり屋内では季節ごとに手工芸や歌やゲーム、体操、早口言葉 唄などを取り入れることで表情が明るくなり生活に活気が出ています。また食事の面や水分の量など検討し医療との連携に努め体調管理が維持できています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4790100079-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和4年 11月12日		

事業所の理念「ゆいまーの豊かな心で本人の心身の力が発揮できるよう支援します」とあるように、助け合いながら住み慣れたホームで本人の力が発揮できるように支援していくことを大切にしている。コロナ感染予防のため、外出の制限や家族との面会自粛等による利用者の心理的ストレス、孤独感の解消に配慮したケアの提供に取り組んでいる。感染対策に配慮して家族とのドライブを楽しむケアに日々取り組んでいる。医療法人を母体とする事業所で、医療面では病院の医師や看護師等との連携が図られ、コロナのクラスターが発生した時には、法人のコロナ支援チームがサポートに入り、利用者に対する継続的な支援を提供することができた。利用者の要望を日々の支援に取り入れることはもちろんのこと、職員の提案等も取り入れることで、職員のモチベーションの向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆいまーるの豊かな心で始まる理念は助けあいながらを意味するゆいまーるの精神を意識し住み慣れたホームで暮らせる様に申し送り時に利用者と復唱し共に実践に繋げて支援しています。パンフレットに盛り込んでいます。	理念は、管理者と職員全員で協議し作成され、職員全員の思いである、「本人の心身の力が発揮できる支援」を理念に掲げることで、具体的なケアの実践につなげることができている。月1回の職員会議の中でも利用者一人ひとりの力を発揮できる支援ができているか話し合っている。理念は、事業所内にも掲示して、毎朝職員と利用者も一緒に唱和している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりは、深く運営推進会議の構成には、地域代表として自治会長、民生委員が、参加している。保育園生の誕生会招待される。コロナ禍で中断はされていますが公民館のイベントにも利用者、職員も招待され参加していました。	地域との交流づくりにつながる場として地域交流ホールがあり、以前はサークル活動等が行われていた。現在はコロナ感染対策に伴い、外部の人との接触を避けるため、地域交流ホールの利用も自粛せざるを得ない状況が続いている。コロナの感染状況が少し落ち着いた時期に、近隣の保育所から誕生会に招待され、3人の利用者が参加した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において自治会長や民生委員の情報共有を行い課題などを話し合い認知症による理解を深めて支援しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者や家族行政職員地域包括支援センター職員、自治会長知見者で構成されているが、コロナ禍で職員のみで会議が行われ郵送しています。会議録は、3回のエレベータ横に置きいつでも閲覧出来るようにしています。	現在コロナ感染対策に伴い外部の人との接触を避けるため、対面での運営推進会議は自粛せざるを得ない状況である。2か月に1回、構成員と全職員に書面にて報告、意見等を求めている。事業所内での会議を開催して得られた意見について検討し日々のケアに活かせるように取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市とは、認定更新時や生活保護の入居調整ボランティア活動ポイントの手続き等や運営推進会議の身体拘束の不適切なケアなどについての意見などのアドバイスを頂き連携を図っています。	市の担当者は運営推進会議の構成員でもあり、日ごろから報告、連絡、相談を取り合いながら協力関係の構築に努めている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については身体拘束の会議は3か月に1回開催しアンケートを実施しアンケートを基に不適切なケアについて話し合い身体拘束についての事例検討を訪問医、訪問看護師が助言を行っている。	身体拘束を行わないケアの基本方針を作成し、契約時にリスクについて家族への説明もしている。3か月に1回会議を開催し、外部研修への参加や事業所内での勉強会も定期的に行っている。母体である医療法人の医師や看護師へ事前に相談してアドバイス等をもらい、職員間で情報の共有を行っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待マニュアルについて高齢者虐待防止対応のマニュアル等を基に管理者、計画作成担当者からケア場面を通じて伝えている。令和4年9月15日に虐待防止の研修3人参加している。	事業所は虐待防止について、マニュアルを整備している。職員の理解が深まるように事業所内で定期的に勉強会も実施している。外部研修にも参加し、全職員で研修内容を共有している。管理者は職員自身が仕事上のストレスを抱え込まないように声をかけ、話を聞く機会を持っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の重要性 高齢者虐待への対応は、生活を維持する虐待を解消させ安心で安全な環境の下での再構築し権利擁護を実現させることが目的で自己実言 自己決定を尊重し出来るように支援することを研修をもって学ぶ		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約解約、改定後に際してご家族の権利や義務を説明し質問に応じ十分に理解し納得して頂けるよう努める。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見や要望等を尋ね電話やハガキを送りたいの希望に対応している。家族等の面会の時の利用の者近況報告などを行い、家族の意見などを取り入れ反映しています。	利用者には日々の生活の中で要望等を聴いている。コロナ禍で面会も難しく、家族からの要望や意見を求めるアンケートを実施した。外食を楽しみにしていた利用者には、家族に相談して差し入れを準備してもらった。コロナ禍での行動制限によるストレス解消のため、感染対策を講じながら、近隣公園の散歩なども行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の定期的開催と日々の申し送りの中から気づいたことなど話し合い提案を反映するよう努めている。	月1回、会議を開催し管理者は其中で日々の業務での要望や意見を聴いている。職員からの提案で、集中力を高める機能訓練を取り入れ、利用者の意欲の活性化につながっている。職員からの意見を取り入れることで、職員の業務に対する意欲も高まり、利用者への日々のケアの質の向上も図られている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績や資格等により昇給仕組みがある。希望に添った勤務が出来るよう配慮されている。職員研修の充実や資格に添っている。	法人が作成した就業規則が整備され、給与や休暇等の労働条件が規定されている。各種資格手当や外部研修の参加を支援している。健康診断については、事業所がコロナのクラスターとなったため、予約通りに実施ができなかったが、年内に受診できるように調整している。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が必要とする研修が受けられるようまた平等に受けられるように研修に出席出来る機会を配慮し職員の知識、技術の育成に努める。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、研修に参加し同業者交流を深め情報を交換している。同一法人のグループホーム情報を交換しながら共にサービスの質の向上に努める。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談や見学に見えた時また訪問時に伺った時に本人の不安や要望を傾聴し誠実丁寧に対応と説明することで安心し信頼関係づくりに努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の見学、または、本人宅を訪問したり、直接会う等をして、本人の不安を取り除き本人の思いを聞くようにする。		
17		○初期対応の見極めと支援サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談ですぐ行えない時その方の状況に合わせて他のグループホームを紹介したり問い合わせを行ったりしている。また他のサービスをする場合は、その状況を含めてケアマネジャーに相談しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者人生機微について学ぶ料理の話や下ごしらえの処理、洗濯物の畳みなどお互いに支えあい、それぞれの役割分担を決め一緒にゆいまーるの理念に沿って支え合っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子を報告しながら認知症になる前の様子等の交換を密に行っている家族の思いを聞き一緒に支えるように努力している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	それぞれの状態に合わせて食事に出かけたり床屋へ行ったりまた散歩時は、近くのサーターアンダギーの店へよってサーターアンダギーを買ってホームで3時のおやつで頂いています。	現在コロナ感染対策に伴い外部の人との接触を避けるため、事業所への出入り面会も自粛せざるを得ない状況が続いているが、感染対策を講じて家族とのドライブや近隣への散歩を楽しめるように取り組んでいる。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う合わない関係を把握し利用者同士の会話や言動に注意利用者同士の関係を把握し、席を考え出来ること出来ないことゆいま一の理念で支援で努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後相談があればいつでも相談出来るようにオープンにしています。		
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意思に添えるよう手工芸や塗り絵、散歩レクリエーション(風船バレー)魚釣りゲームなど自己決定が出来るよう支援しています。	職員は利用者の基本情報やアセスメントを踏まえ、定期的なカンファレンスの場で話し合いながら、利用者の日々の暮らしの中で好きなこと利用者の意向の把握に努めている。利用者の「好きなものが食べたい、ドライブに行きたい」の声に応え、定期的実施している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から聞きとりをした施設や事業所に面談に同時に了承を得てスタッフやケアマネから情報を得ている。入居後は、ご本人とや家族とコミュニケーションをとる際情報を収集し、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の活動内容その様子や過ごし方を記録し申しをすることで変化や発見等を情報共有し現状把握に努めています バイタル測定 食事や、水分量、排尿排便のチェック、毎月体重測定で健康を状態を把握している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の要望意見等を聞きとりプランに反映させている。必要の時訪問診療の先生や訪問看護意見を取り入れ担当者会議を「実施しその人らしいプランの作成に努めています。	コロナ禍でその場に集まったの担当者会議は開催できていないが、計画作成時には利用者の意向は日々のケアの中で、家族の意向は電話で確認して介護計画に反映している。モニタリングは3か月に1回実施、目標の達成状況や身体状況の変化等に合わせて、その都度介護計画の変更をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録や申し送りノートに記入した上で申し送りをし情報を共有した介護計画に沿った記録の書き方を徹底するようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームの入居者は主治医や訪問看護との協力でPCR検査やワクチンなど行っている。また体調に変化があった場合相談も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員に地域の方がはいており地域の行事を進めてくれている 最近ようやく保育園の誕生会に招待され利用者2名参加され 近くのふく薬局に買い物にでかけたりと楽しみができています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医3名協力医を継続している利用者6人は、協力医をかかりつけとし訪問診療を行っています。受診時経過、観察や様子等情報を提供し医師からの経過観察事項指示を受けまた健康管理に異常の早期発見が出来るように努める	訪問看護師の週1回の訪問は全員利用しているが、協力医の訪問診療は6人と3人は馴染みのかかりつけ医を継続受診している。家族が受診対応の際は、診療情報提供書を利用してやり取りをしてる。11/25、11/26にレントゲン撮影他検査を行い、利用者の健康管理に留意している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人の看護師と連携体制をとり週1回の健康管理訪問で日常様子異常 気になることがあればいつでも相談できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は利用者が適切な医療 看護が受けられよう必要適切な情報を提供している面会に伺い利用者の情報を確認すると共に病院関係者からも状況や経過の聞き取り情報を共有しながらスムーズに退院 帰所後は、適切なケアに努める。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けては、契約時に指針や終末期医療に説明し同意を得ています。ターミナルケアについては家族と連携を取りながら要望を聞き病院へ協力し対応しています。	契約時に「終末期医療の説明書」を基に利用者、家族には丁寧に説明を行い、「確認書」に署名を頂いている。状況に変化が生じた場合など、「看取り及び重度化に関する方針」に基づいて説明し、「医療連携に関する同意書」を確認の上、家族の要望を聞き病院へ協力を依頼し、医療連携を図っている。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対策マニュアル等あります。救急者の呼び方夜間救急マニュアルは、見やすい位置に掲載してあります。止血法やタンカーの使い方の応急手当 AEDの使いかたなど学習しています。	緊急時のマニュアルが整備され、緊急連絡先もフローチャートで分かり易いように準備されている。年間の研修の中で「高齢者の事故発生対応」について職員で勉強する機会を設け、初期対応の方法など取り組んでいる。ヒヤリハットと事故報告書については、以前の外部評価で指摘された部分を職員への周知が確認できるように、署名の枠が新たに設けられている。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的の実施している。	災害に迅速な行動が取れるようにご利用者とともに避難訓練を行なっています。感染予防等についてもマニュアルを作成し定期的に勉強会を行なっています。	消防訓練は、8月、10月に小多機と合同で昼夜想定で2回行われている。11/5には管理者を含む職員4人で、若狭公民館で行われた「那覇市総合防災訓練」に参加している。今後も海岸に近い地域の安全確保のため、非常災害対策計画を進めている。備蓄品については、リストは整備されているが今後はローリングストックについても、検討を希望する。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりのリズムに合わせて起床時間に合わせて朝食を提供したり身だしなみについてのこだわりや配慮するなど利用者の思いスタイルを尊重して尊厳をまもりながら自己決定が出来るよう支援する。	起床、洗顔、着替えなどそれぞれのリズムで自宅での生活を継続して維持できるように支援している。ほとんどの方が意思表示ができるので、希望を聞きながら好きなコーヒーを家族に購入してもらい、居室で飲んでもらうなどの個別支援を行ったり、プライバシー確保のため施錠をされる利用者には、安全確保のため、夜間は解錠してもらうよう説得して承諾してもらっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の尊重は、理念であり職員は、ご利用者が思いが出来る環境づくりや言葉遣いに気をつける表現が困難な方には、言動からニーズを読み取り代弁する様努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの趣味を持ち生活のペースを把握理解し楽しみを持ち活動や行事への参加起床時や就寝時も一人、ひとりに合わせています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	これまでの生活歴や環境好みを尊重しながら清潔に心がけ季節や場所に適した衣類の行事にはマニキュアして差し上げることなど支援しています。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の嗜好に合わせた料理や季節間のある食事が出来るように努めている。油みそ漬物などを手作りし食事を楽しんでいます。食事のトレーの準備やエプロン、盛り付けの準備等役割分担を決め活動をしています。	3食、事業所で職員が献立作りから、買出し、調理まで行っている。毎週土曜日は、近隣に住んでいる民生委員の方がもやしを届けてくれ、全員でひげ取りなど下ごしらえをしている。タンパク質や野菜を多く摂取出来る様にミキサー等を使い、食物残渣が口の中に残らず、嚥下機能を高められるよう工夫している。コロナ禍以降、職員は時間をずらして同じメニューを食べている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、毎日チェックしており水分量も把握している。摂食困難になってきた場合は、栄養補助食品等を使い目標カロリーを決め取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後義歯洗浄嗽いをし定期的にポリデントも使用し一人ひとりの状態に合わせて介助声かけをしている。口腔内の清潔に努めている。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各々の排泄パターンを把握してタイミングに合わせてタイミングを見てから現状必要な排泄支援になっている。なるべくトイレに座って支援	日中は、ほとんどの方がトイレでの排泄を支援している。排泄パターンを把握しているので、声掛けを行い、排泄を促すようにしている。2ヶ所のトイレは、何れも車椅子での利用可能な為、安全に対応することができる。夜間は、2人がポータブルトイレを利用しているが、介助の必要な方は、ナースコールや手製のマラカスで合図をもらい支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給は、時間を決めて定期的に飲んでもらっている。便秘症の方には、繊維質のある野菜メニューを取り入れ乳酸の飲み物やヨーグルトを摂取して頂く等要望に努めている。なるべく自然排便を促す様に努力している。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は午前中の週2回以上で午前中を基本実施しています。週3～4回の希望にも対応しています。尊厳等を守り更衣室は、閉めて脱衣や入浴を支援しています。	基本は週2～3回の午前中としているが、入浴が好きな方の希望に応えるように支援している。午前8:30から入浴を希望される方やシャワーチェアを利用して2人介助での対応も行っている。脱衣後もタオルを使用するなど羞恥心に配慮し、脱衣所での急な温度差に対応して冬場はヒーターを利用している。整容時にはほとんどの利用者が馬油やクリーム、軟膏を使用している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冷房や暖房の温度設定やいれたり切ったりする。時間に心配したりし安眠出来るよう心配りし日中でも部屋で昼寝出来るよう声かけを行っている。寝具は、季節に応じたものを使用しシーツ毛布は、清潔にしている。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方に関するファイルがありいつでも職員がみられるところにある。また、内容についてもカンファレンスの時に学習会を行っている。また、日常の記録に残して医師へ情報を提供し治療に活かしている。	利用者それぞれに服薬の情報提供書がファイルされ、いつでも閲覧することができる。薬は、個々のケースに入れられ利用者名が記入されているが、9月に飲み忘れが発生している。以前に飲み忘れが発生した際に、与薬の職員以外にダブルチェックを行い空の袋を取り置きするよう改善したが、再発防止の検討会議の議事録などが確認できず、今後の対策に期待する。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者生活歴や情報収集を行いやりがいや喜びを感じて頂くことのできる役割活動を心身の状態に合わせて一日の活動にとりいれている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出が制限されているのでホームの屋上で夕涼みしながら椅子に座ってボール蹴りしたり近くの公園に行ったり保育園からの招待で誕生会に招待され利用者も満喫した様子でした。	以前は、奥武島へドライブがてら天ぷらを買って食べるなどの楽しみがあったが、コロナ禍以降、外出を自粛し外食も出来ない状況のため、利用者が閉塞感を感じている様子があり、屋上でのレクや近くの公園へ少人数で散歩へ出かけるなど、ストレスを発散できるように取り組んでいる。室内レクでもボール蹴りで筋力低下を防ぐよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお小遣いを持っている方であれば本人から買い物の希望があれば一緒にでかけたりしています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に添い日常的な会話を電話をしたりお手紙やハガキ書くことの援助することで利用者との交流関係を深めています。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要に応じて採光したり湿度や温度の調整換気を行い快適に過ごして頂けるよう努めている。季節ごとに利用者本人が作り上げた作品を掲げ彩どりを添えながら温かな家庭的な雰囲気の中で過ごして頂けるよう努めてる。	食堂兼リビングが東南向きの3階で、風通しが良く、日差しや明るさもカーテンで調整している。昼食後も4~5人の利用者がリビングで民謡を聞きながら談笑したり、リハビリを兼ねて廊下を歩くなど、思い思いに過ごす様子が見受けられた。3月のクラスター発生以降、以前にも増して換気や温度湿度計を使って管理を行い、テーブルなどをまめに消毒をし、清潔保持に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の落ち着いた場所でテレビをみたり新聞を読んだりしながら気の合う同士で談笑したり塗り絵や手工芸をその都度たのしんでいます。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はそれぞれの利用者や収納ボックスや家族の写真や好きな絵を飾ったりして安心して過ごせる居室作りをしています。	居室の入り口には、以前実習生が作った表札や縫物の得意な職員が作ったのれんがかかり、利用者が迷うことなく、自室へ戻れるよう工夫されている。エアコン、ベット、収納用ロッカー、防災カーテン、ナースコールが設置され、テレビや家族の写真などを持ち込み、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人、ひとりの力を把握し出来ること、洗濯畳みやもやしのひげ取り エプロンの準備やモップかけや自分で出来る人は、洗濯物干し トレー拭きなど出来ることの支援を心掛け安心した生活が送れるよう支援しています。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		運営推進会議において利用者、家族、行政職員、地域包括センター職員自治会長、知見者民生委員 参加できずアンケートの意見乏しいのが現状です。	来年度からは利用者、家族、市職員、包括支援センター、自治会長 知見者、民生委員からの多くのアンケートや意見が得られるよう取り組み事業所のスキルアップへ繋げたい。	①アンケートなどの工夫 ②来年度からは、地域交流センターにて運営推進会議の開催し多くの意見が聞け徐々に地域の行事などに参加していきます。	12ヶ月
2		特定検診についてコロナ禍にあり 今年1回目3人出来ていない。夜勤者2回目6人出来ていない。	本年度は、全員が特定検診を受診し健康管理に努めたい。	シフトなどの変更があり1月中に1回目3人2回目5月中6人 取り組んでいます。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。